

主な課題、今後の取組の方向性及び現在の具体的取組

資料3

	課題	今後の取組の方向性(14.8.29)	現在の具体的取組
シェールガス 輸送	通航料金の透明性・安定性、合理的な通航要件、計画的な工事進捗	パナマ側との対話の枠組み	<ul style="list-style-type: none"> ・日・パ海事政策対話を創設(昨年11月) ・拡張工事の進捗、利用条件、新通航料金等の情報交換のため、対話の継続を確認
	LNG船の受注確保	大型タンク船、省エネ船、周辺資機材等への技術開発支援	<ul style="list-style-type: none"> ・LNG船等に資する技術開発支援 ・大型で効率的な次世代型LNG船の安全評価基準策定(26年度補正予算に計上)
	船舶調達リスクの軽減	輸出許可取消(リボケーション)に対する保険によるリスクヘッジ (長期傭船契約の下で建造した船舶に係る用船料支払い停止リスク)	船舶調達に係るリスク引受について、引き続き各社からの相談受付中 (フリーポートプロジェクト向け液化設備の投・融資に対する保険引受は決定済)
	船員逼迫への対応	乗船経験や資格保有が重視されるLNG船員の確保・養成支援	新技術に対応可能な船員の訓練課程構築に向けた調査(27年度予算に計上)
	LNG船国内入港手続き	入港手続きに係る審査の迅速化・合理化	産学官が連携し、安全性を担保した手続き迅速化等の具体的手法の検討(27年度予算に計上)
北極海航路	航路の円滑な利用	航行条件、避難・補給港整備等に関する透明性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・国際セミナー参加等、情報収集を実施 ・ロシア当局へ懸念・要請事項を伝達
	北極海特有の事情を勘案した安全・環境対策	IMOにおける船舶安全・環境基準(Polar Code)、船員資格策定への参画	<ul style="list-style-type: none"> ・安全要件を義務化するSOLAS条約改正案を採択 ・環境要件を義務化するMARPOL条約改正案を最終化 ・船員訓練要件を義務化するSTCW条約改正案の最終化に向け審議中
液化水素 輸送	世界初となる液化水素輸送の安全対策	我が国主導で国際基準を策定し、先行者利益を獲得	本年9月からのIMO小委員会での審議開始に向けた検討を実施
	輸送船の開発	2020年頃までの運用開始を目指したパイロットプロジェクトの推進	液化水素船等の技術要素の実証(27年度経産省予算に計上(国交省連携事業))